

# 会 議 録

## 1 会議名

令和元年度 第4回 阿賀野市行政改革推進委員会

## 2 開催日時

令和2年1月30日（木） 午後1時30分から午後3時00分まで

## 3 開催場所

水原保健センター 2階 介護認定審査室

## 4 出席者の氏名(敬称略)

- ・出席：伊藤委員長、漆山委員長職務代理、太田委員、小野里委員  
小林委員、菅井委員、成川委員（欠席：大淵委員）（8人中7人出席）
- ・事務局：企画財政課（大橋企画財政課長、小山企画係長、廣川主任）

## 5 議題(公開・非公開の別)

- （1）阿賀野市行政改革推進計画案の策定に係る意見聴取について（公開）

## 6 非公開の理由

—

## 7 傍聴者の数

—

## 8 発言の内容

委員長

こんにちは。

第4回の行政改革推進委員会であります。

第3回の行政改革推進委員会では、主に行政改革推進計画案を策定する目的について、話し合いをしたが、今回はその計画案の内容を審議したいと思う。

皆様、よろしくお願ひします。

行政改革推進アドバイザーである宍戸教授もよろしくお願ひいたします。

それでは、議題（１）から事務局より説明願います。

## (1)阿賀野市行政改革推進計画案の策定に係る意見聴取について(公開)

(資料１から２に基づき事務局より説明)

委員長

ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様ご意見等ありますでしょうか。

この行革計画のテーマは防災・減災と、人口減少対策に備えるために、基金を温存して市債を減らすという事だと思うが、これをやることによって、どのような姿が見えてくるのか。

事務局

先ほどの新聞報道等で、阿賀野市は将来負担比率が高いという事が伝えられたが、計画のとおり一般財源を確保して、この将来負担比率を低減させていくことで、市民の方への将来的な負担を減らしていくことができると考えている。

委員長

それは、つまり総合計画の目標（元気で明るく活力ある魅力的なまち）の実現ができるということか。

事務局

そのとおりである。

委員長

この答申後に、パブリックコメントをかけて市民に意見を求めて反映していくのか。

事務局

市長への答申を行った後に議会に報告し、その後にパブリックコメントを考えている。

委員

この計画の中には、今話題の働き方改革も含まれているのか。

事務局

例えば、近年の話題になるAIやRPAなどを活用して、同じような事務をやっているものを減らしていくという、今までの業務のやり方、プロセスを変えていくような事業も盛り込むことを考えている。

具体的には、現在、職員が残業をして事務を行っている状況が多いが、やり方を変えることで効率的に残業を減らしていくなど、こうした意味では、働き方改革の要素も含まれている。

委員

働き方改革には、出生率の向上や労働生産性の向上など課題はたくさんあるが、やれることからやっていくという事で考えているのか。

事務局

今、事務局として考えられることの例として、職員が実施している多くの公共施設の草刈業務等を、積極的に民間にお願いしたりすることで、職員が、効率的にその時間を他の業務を行えるようになることも考えていきたい。

次期定員適正化計画が未策定であるが、職員数も減ってきており、人件費も削減していかなければいけない。時代の流れとしてA I等を活用した業務を取り入れることも、すぐそこまで来ている。

事務局

我々の業務のやり方も効率的な視点から変えていかなければならないというのも、行政改革の主流であり、主にこうした事業を展開する必要があると考えている。

委員長

他にないか。

委員

細かいことになるが、2ページの「これからの課題」にある広域ごみ処理施設とは、どういうものなのか。

事務局

五泉市と阿賀町と共同で建設を予定するごみ処理施設の事である。

委員

現在、笹神地区にある施設（環境センター）は含めるのか。

事務局

現在の環境センターに代わる施設である。

委員

こういった内容は具体的に説明しないと市民がわからないのではないか。

委員

私もそれは初めて聞く内容だった。

事務局

現段階では、まだ詳細を協議中であり、明確な決定内容が少ないため、今後は担当部局からも情報提供を心掛けていきたい。

委員長

この計画に搭載する内容としては、今の施設がどうなって、何を作っていくのか、という概要だけわかれば良いのではないか。

委員

この広域ごみ処理施設に限らず、下水道もお金がかかると聞いている。

こうした内容も、情報提供をしていただきたい。

事務局

計画の9ページにも記載したが下水道事業会計への繰出金は大きい。

この下水道整備に係る繰出金は、令和5年度を目途に整備が完了するまでは、大きなものとなることが見込まれる。

委員長

こうした内容は、議会等では話し合っていると思うが、広域ごみ処理施設を始めとした内容は、市民に対しても何らかの形でこれから発信して行ってほしいと思う。

委員

こうした、これからの課題は、市民に分からないことも多いと思うので、小中学校の長寿命化などの内容も含めて、ここ（注釈）に付け足してもらえると良いのではないかな。

事務局

市民へのパブリックコメントでは、もっとわかりやすい「概要版」を作成して示したいと考えている。

広域ごみ処理施設の内容は、未確定の要素も多いので、どこまで市民にお伝えできるか精査したい。

委員長

広域ごみ処理施設などは、伝えられる骨格の部分だけでも注釈をつければ良いと思う。

パブリックコメントでの概要版は、2ページ目の内容に沿って、市の将来的な姿がどのように見えてくるか、ということフロー形式などで1ペーパーあれば良い。なぜ計画を作るのか、という骨格がわかるものがあれば良いのではないかな。

事務局

パブリックコメントでは、この計画本体と合わせて概要版をA3判で示すようなことを考えたい。

委員

18ページの「職員数と給与費の目標推移」のグラフは人員が大きく低下しているように見えるが、実は4人しか減っていないのに急カーブなのが気になる。

事務局

グラフの単位などを改めたい。

また、現在の定員適正化計画が令和2年度までで、令和3年度以降の定員適正化計画を策定中である。このため、この内容は計画策定後に精査した後、改めて修正して掲載する。

委員

これからの課題が4項目挙げられているが、これ以外の課題もいろいろな項目がある。

例えば、道の駅の計画や、農業関係だと、ほ場整備、また阿賀野バイパスに繋がる市道の整備など、もっと項目を出して、これだけのお金がかかるので行政改革する必要があるというアピールをしたらどうか。

事務局

計画している事業全てにお金がかかることは委員のお話のとおりであるが、それが全て将来的に市の大きな財政負担になる訳ではない。

現状は、健全な財政状況が堅持されているので、多くの事業を盛り込んで危機感を煽り過ぎないようにしたい。

委員

アドバイザーにもお聞きしたいが、基金というものは、一般的に阿賀野市の行政規模でどのくらい必要なものなのか。

行政改革推進アドバイザー

例えば、AさんとBさんの家で預金残高が違うのと同じように、A市とB市での、それぞれの哲学があつて、基金は一概にいくら必要とは言えない。

しかし、統計上の考え方や私の経験則からすると、県財政のレベルでは標準財政規模の5%と言われている。

ただし、この各市の持っている哲学は、なぜこれだけの基金が必要だと言うことを明確に市民にも説明する責任がある。

事務局

阿賀野市では、現在、財政調整基金残高を標準財政規模の13%程度確保している。

我々のような自治体としては、大きな災害があつた時などを想定すると、標準財政規模の10～15%を確保しておきたいという考え方がある。

行政改革推進アドバイザー

余談であるが、貯金を貯めすぎると、財務省は地方の交付税を減らすという論法になりがちだが、だからと言って市民の安全を確保するために15%確保したいということは、今のお話をお聞きすると、阿賀野市としての確固たる哲学を持っていると言える。

委員長

自治体の立地条件によっても違うのだろう。

阿賀野市は山岳地帯もあるということから、災害のためにはこれだけの貯金が必要だという事だと思う。

行政改革推進アドバイザー

それが、まさに哲学の説明責任を果たしているという事に繋がる。

委員

今の基金残高の考え方も、情報提供していくべきだろう。

事務局

この計画での一般財源確保額は、最終的には一部を基金にも積み増ししていくことを想定しているが、第一に交付税算入率の低い借金を増やさないという目標からきている。

阿賀野市の借入は、現在のところ65%程度が交付税算入されている。新潟県では、凡そ30%であることから低い算入率ではないが、これからも交付税算入率の低い市債を発行し

ないようにしたい。

行政改革アドバイザー

この計画の構造での一番の目標は、一般財源確保目標額、つまり自由に使えるお金を確保する。

その結果として、財政調整基金がこれだけ維持される。

つまり、自由に使えるお金をこれだけ確保するというのが1丁目1番地ということ。

一般財源を確保することで、貯金が増える、そして、これからの課題に対応できるという関係性であることを明確にするべきである。

委員

課題については、一般家庭でも同じように、出そうと思えばいくらでも出るだろう。優先順位をつけた中で課題を出すことで良いと思う。

事務局

令和2年度は、この計画に基づいて、具体的にどのような事業をしていくかという中で、例えば、原価計算に基づいた使用料の見直しなども考えていきたい。

委員

6ページのグラフで寄附金が少ない理由は何か。

事務局

これは「ふるさと阿賀野市応援納税寄附金」が大きく関わっており、この平成29年度のグラフでは非常に低い状況だったが、平成30年度には、寄付額が1億円まで上昇した。

これは、平成30年度から、インターネットによる寄附の受付や返礼品を充実させたりしたことが要因であり、平成30年度のグラフとした場合は、グラフの平均程度まで上昇する見込みである。

委員

平成30年度のグラフで置き換えることができないか。

事務局

現段階では、類似団体平均の公表について、平成29年度が最新であることから、グラフを作成できなかった。説明の中で寄附金の内容を加えることにしたい。

委員

これからの大きな課題は承知した。

しかし、こうした課題があっても具体的な手段がまだないが、具体的な取組をしていくという事業は、計画上どこにあるのか。

事務局

具体的な事業計画は、令和2年度での策定を考えているが、どのような事業を実施していくかという事を10ページの「まとめ」として掲載している。

現段階では、このまとめしかないが、この内容に基づいて具体的な事業を協議したい。

実際に、どれだけ行動するのかというのは、令和2年度に事業に落とし込んだ作業が出

てくる。

委員長

この計画の骨格としては、宍戸教授どうだろうか。

行政改革推進アドバイザー

目指すところは「元気で 明るく 活力ある 魅力的なまち」の実現。これが究極的な目標なので、よろしいかと思う。

記載されている財政の専門的な用語等の調整については、後ほど事務局と協議をしたい。

委員長

この計画の冒頭「はじめに」という内容に全てが網羅されている。

概要版では、ここに記載している内容に基づいて「元気で 明るく 活力ある 魅力的なまち」を実現するという事を、簡単にわかりやすく示せると良いのではないか。

他にご意見等はないか。

(意見なし)

委員長

なければ、これで議題（１）阿賀野市行政改革推進計画案の策定に係る意見聴取について、終了する。

それでは、その他に移らせていただく。

事務局で何かあるか。

その他（令和元年度 事業評価(外部評価)の結果に基づく取組方針(案)について）

(資料3に基づき事務局より説明)

委員長

委員の皆様、何か意見はあるか。

目新しいものは、5番「少年自然の家運営管理事業」についての、国の外部専門家の派遣だと思うが、これは令和3年度に行う予定か。

事務局

現在、令和元年度中に申請を行っており、申請が通れば令和2年度中に派遣が叶う。

委員長

この事業には、様々な専門分野の方がいると思うが、この少年自然の家の立地的なものも含めてお願いするという事か。

事務局

例えば、近隣にあるキャンプ場やうらの森農園など、そうした施設を含めて全てのと

ころを見ていただくことで、行政だけでは考えられない、民間の立場での活用方法を提案  
いただきたいと考えている。

委員長

俯瞰的に見ていただくということか。

他に何かあるか。

委員

この専門家の派遣は、(委員会での)改善という評価があったので申請したものなのか。  
それとも、もともと考えていたものなのか。

事務局

改善の方向性が出たので申請している内容である。

当然、この評価事業としてテーブルに乗った事業であるので、我々としても、何か新たな  
方策を考える必要があると検討していた事業であった。しかし、この派遣事業の申請は、  
委員会での改善の方向性に基づき、決裁を受けたものである。

委員

4番「B&G海洋センター運営管理事業」は、改善計画の中でPRの強化とあるが、阿賀  
野市全域への広報を考えているのか、やはり安田地区だけなのか、これはどういった意図  
か。

事務局

こちらから担当課に、そこまで具体的に聞きこんでいないが、評価時に皆様からのご意  
見を伺った内容から、今までどおり安田地区だけに広報を入れるというのは考えていない。

委員

これから整備される道の駅にも、広報を入れていくのも良いのではないかな。

事務局

道の駅は、新潟方面から阿賀野市への入り口にできることを考えると、それも有効であ  
ると考える。

行政改革アドバイザー

この施設の客層はどのようなものか。

チラシやポスターで来るのか。ターゲットを明確にしたうえで、どのような方法をする  
べきか決める必要がある。

広報しました、はいこれで仕事終わりではないはずである。

委員

夏場などは、それなりに人も入っているように思う。

色々な宣伝に力を入れれば、それなりに人が増えるのではないかな。

もう一つ、現在の駐車場の脇にある緑地帯も整備すると良いのではないかな。

委員

広報としてインターネットがあるが、SNSでよくあるのは、アカウント作ると思うが

行政のものは大体が記憶に残らない真面目なものが多い。

要は、話題になるためにやらないと意味がないので、面白いものを考えるべき。

インターネットで話題になるのは、面白いか、役に立つか、これしかない。

そうした戦略も必要なのではないか。

委員長

他にありますか。

(意見なし)

なければ、これで第4回行政改革推進委員会を終えたいと思う。

皆様、お疲れさまでした。

【 閉 会 】

## 9 問い合わせ先

阿賀野市役所 総務部 企画財政課 企画係

TEL : 0250-62-2510 (内線 2243)

E-mail : kikaku@city.agano.niigata.jp